

平成21年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その1)

計画体系コード	5-1-1	事業名	厚生年金会館存続の検討
担当	観光文化局文化部市民文化課 柏原 211-2192		
全体計画			
事業内容	<p>北海道厚生年金会館は、昭和46年の開館以来長きにわたり、北海道における芸術・文化の拠点としてかけがえのない役割を果たしてきた。</p> <p>厚生年金会館は、国の年金制度改革の一環として、平成22年9月までに一般競争入札により売却されることが決定しているが、厚生年金会館が担う役割の重要性は今後も変わらず、引き続きその機能が維持される必要があることから、官民協働による取得、運営、資金調達などの枠組みを構築し、会館存続に向けた取り組みを進める。</p>		
	<年度別の事業内容>		
事業内容	平成19年度事業内容(決算)	平成20年度事業内容(決算)	
	<p>1 札幌商工会議所、北海道、札幌市の三者による北海道厚生年金会館存続検討会議の実施(計5回)</p> <p>2 厚生年金会館の一般競争入札は平成20年度中と見込まれるため、平成19年度中に存続スキームの構築や参加可能な民間事業者の調査・選定を行う必要があることから、専門知識を持つ調査機関等に以下の業務を委託して実施</p> <p>(1)北海道厚生年金会館存続に係る調査業務〔実績事業費：4,900千円〕 [期間]平成19年6月～9月 [内容]運営の担い手となりうる民間事業者へのヒアリング調査 民間事業者が参加可能な会館取得、運営、資金調達スキームの検討等</p> <p>(2)官民協働による会館存続スキームの構築に係るアドバイザー業務〔実績事業費：7,600千円〕 [期間]平成20年1月～平成20年3月 [内容]「北海道厚生年金会館存続に係る調査業務」の結果を基にしたスキーム構築関連業務、入札関連業務等</p> <p>上記の(1)、(2)の調査結果等を基にして存続スキームを検討した結果、札幌市が主体となって入札に参加することを決定</p>	<p>1 札幌商工会議所、北海道、札幌市の三者による北海道厚生年金会館存続検討会議の実施(計2回)、三者トップ会談の実施</p> <p>2 これまでの検討の結果、厚生年金会館を存続させるためには、札幌市が主体となって入札に参加し、施設の取得を目指すことが最適であるとの結論に至ったため、市が入札に参加するに当たって各種調査を実施する必要があることから、専門知識を持つ調査機関等に以下の業務を委託して実施</p> <p>(1)北海道厚生年金会館の存続に向けた施設設備等調査業務〔実績事業費：7,665千円〕 [期間]平成20年5月～平成21年2月 [内容]施設および設備の調査、運営期間中に必要な修繕費用や運営期間終了後の解体費用、運営収支見込の算出等 上記の調査結果等を参考に入札金額を決定</p> <p>3 平成20年11月13日に入札が行われ、札幌市が厚生年金会館の建物・土地について落札 [落札金額]28億5,230万7,550円 (駐車場のある北2条部分については札幌商工会議所が落札)</p> <p>4 運営に向けた諸準備を実施</p>	
場所・規模・件数等	平成21年度事業内容(予算)	平成22年度事業内容(予算)	
	(この欄は空白)		

平成21年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その2)

計画体系コード	5-1-1			事業名	厚生年金会館存続の検討		
達成目標の状況							
項目	18年度末 (現状)	19年度末 (実績)	20年度末 (実績)	21年度末 (予定)	22年度末 (予定)	22年度末 (目標)	
北海道厚生年金会館の存続	-	存続に 向けた検討	入札に参加 落札し存続			存続	
市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)							
<p>市民との連携、市民参加 厚生年金会館の存続に向けて、平成17年7月に音楽関係者や文化団体、経済団体などの有志により「北海道厚生年金会館存続を願う会」が設立され、平成18年1月にシンポジウムが開催された。そして、平成18年2月、「札幌商工会議所」と「存続を願う会」により、北海道厚生年金会館存続チャリティ市民活動「LIFE&LIVE Projectチャリティ実行委員会」が結成され、チャリティ公演、募金活動などの存続運動が行われた。20年10月には「存続を願う会」から札幌市へ施設取得資金の一部に活用してほしいとして現金12,307,550円が寄附された。</p> <p>企業等との連携・協働 [資金協力] 厚生年金会館の入札は北1条部分と北2条部分に分けて行われたが、駐車場のある北2条部分について札幌商工会議所が入札に参加し落札したことで、一体的な機能を維持することが可能となった。 [人材協力] (該当なし) [情報協力] 北海道厚生年金会館存続検討会議により三者で情報を共有し、地元が一丸となった取り組みを進めた。 [その他の協力] (該当なし) 市民・企業等が参加しやすい環境づくり (該当なし)</p>							
評価(成果)			課題				
<p>厚生年金会館の存続に向けた検討において、当初は、官民協働による会館の取得を目指していたが、市民交流複合施設が開設するまでの少なくとも7年間程度は大ホールを存続させる必要があることや、当地の将来的な土地利用への関与の必要性等を考慮し、札幌市が主体となって入札に参加し、会館の取得を目指すこととした。 平成20年11月13日に行われた会館の入札において、ホール棟を含む北1条部分については札幌市が、駐車場のある北2条部分については札幌商工会議所が、それぞれ入札に参加し、落札することができた。会館の建物・土地を札幌市が落札したことで、ホール機能の維持ができたが、駐車場部分についても札幌商工会議所が落札したことで、一体的な機能を維持することができるということが、官民の連携の中で実現できた。</p>			<p>21年11月末の施設引渡しまでに厚生年金会館の運営体制を整える必要がある。</p>				
今後の事業の予定・方向							
<p>厚生年金会館の運営方法については、会館の構造や運営形態などから見て、ホテルとホールを一体として取り扱うことで、効率的かつ相乗効果が期待できることから、施設全体を運営事業者に対し貸付を行うことにより、会館運営を継続していく予定である。 また、運営主体については、かねてから官民一体での会館存続を目指してきた経緯、及び実際に商工会議所が会館に付随した北2条側の駐車場を取得したことから、会館全体を札幌商工会議所に貸付け、会議所を中心とする民間スキームにより運営全般を担う方向で検討する。 その他、会館の維持に必要な費用を少しでも多く確保するため、ネーミングライツ導入の検討を進める。</p>							

平成21年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その3) (単位:千円)

計画体系コード		5-1-1		事業名		厚生年金会館存続の検討		
事業費の推移								
項目		19年度	20年度	21年度	22年度	計		
計画	事業費	13,000	8,000	0	0	21,000		
	財源内訳							
	国・道支出金	0	0	0	0	0		
	市の債	0	0	0	0	0		
	その他の他	0	0	0	0	0		
一般財源	13,000	8,000	0	0	21,000			
予算	事業費	13,000	8,000	0	-	21,000		
	財源内訳							
	国・道支出金	0	0	0		0		
	市の債	0	0	0		0		
	その他の他	0	0	0		0		
一般財源	13,000	8,000	0		21,000			
実績	事業費	12,500	7,665	-	-	20,165		
	財源内訳							
	国・道支出金	0	0			0		
	市の債	0	0			0		
	その他の他	0	0			0		
一般財源	12,500	7,665			20,165			
事業費の進捗率		(H19実績事業費 + H20実績事業費 + H21予算事業費) / (計画事業費)					96.0%	
計画との差異(予算・実績・事業内容・規模・時期等)								
(全体)								
[19年度]								
[20年度]								
[21年度]								